

網走市住生活基本計画（案）へのご意見と網走市の回答等について

「網走市住生活基本計画（素案）」について、令和8年1月20日から同年2月20日まで、市民の皆さまからのご意見を募集したところ、1件の意見書が提出されました。

意見の内容及び網走市の回答等については、以下のとおりです。

意見の内容	網走市の回答等
<ul style="list-style-type: none">・本計画案の方向性は妥当であるが、「どこを重点化し、どこを再編するか」という選択をより明確に示し、実効性の高い施策として具体化されることを強く期待します。 （意見書の本文は別紙のとおり）	<ul style="list-style-type: none">・本計画案は、関連する各計画の内容を踏まえた、大まかな方向性を示す計画となっており、いただきましたご意見は、各担当部が進める施策の一案として、活用させていただきます。

令和8年2月25日作成

意見書（原文のまま）

ご意見（任意記述）※必須

本計画（案）は、人口減少および少子高齢化が進行する中で、住まいを軸とした持続可能なまちづくりを目指すものであり、その方向性は妥当であると評価いたします。居住誘導区域の設定、空き家対策の推進、住宅分野におけるゼロカーボン対応、福祉や都市計画との連携など、現状課題を的確に捉えた内容であると考えます。

一方で、計画の実効性を高めるためには、より具体的かつ踏み込んだ方針の明確化が必要であると感じます。特に、居住誘導区域については、単に区域を設定するだけでなく、住宅取得・改修支援の重点化やインフラ更新の優先順位付けなど、実際に人の流れを生み出す政策誘導が不可欠です。誘導区域を明確に「選ばれるエリア」とする施策展開が求められます。

また、公営住宅については老朽化団地の増加が見込まれる中、単純更新を前提とするのではなく、団地の統廃合や高齢者対応型住宅への転換、民間賃貸との役割分担など、量の維持から質の再編へと舵を切る方針をより明確に示すことが重要と考えます。

空き家対策においては利活用促進に加え、適切な整理の視点も欠かせません。解体補助制度の充実や危険空き家への迅速な対応など、防災・景観・地域コミュニティ維持の観点を含めた総合的な施策強化が望まれます。

さらに、住宅政策は単独で完結するものではなく、公共交通や商業機能との連携が不可欠です。高齢者が住み替えを検討する背景には、交通手段の確保や生活利便性の問題があります。居住誘導区域と交通結節点、医療・商業施設との一体的な設計をより強化することで、実効性のあるコンパクトなまちづくりにつながると考えます。

加えて、住宅産業の担い手確保も重要な課題です。地域の施工体制が維持されなければ、改修や省エネ化の推進は困難になります。若手技能者育成や技術継承支援など、地域住宅産業の基盤強化を計画の中でより具体化することを期待します。

本計画（案）は網走市の将来を左右する重要な指針であり、その方向性は妥当であると考えます。今後は、「どこを重点化し、どこを再編するか」という選択をより明確に示し、実効性の高い施策として具体化されることを強く期待し、意見として提出いたします。